

左官技能者能力評価基準

令和元年10月25日策定

令和2年10月8日変更

建設技能者の能力評価制度に関する告示（平成31年国土交通省告示第460号）及び建設技能者の能力評価制度に関するガイドライン（平成31年3月29日）に基づき、左官技能者の能力評価基準（以下「本基準」という。）を以下のとおり定める。

1. 能力評価基準の策定主体

一般社団法人 日本左官業組合連合会

2. 能力評価基準を策定する目的

建設キャリアアップシステムに登録・蓄積される情報を活用して、左官技能者の技能について客観的な評価を行うことにより、

- ①評価結果を活用して、取引先や顧客に対して技能水準を対外的にPRすることを通じて、価格交渉力の強化を図り、技能に見合った評価や処遇を実現する
- ②キャリアアップに必要な経験や技能を明らかにすることで、左官技能者のキャリアパスを明確化し、若年層の入職拡大・定着促進を図る
- ③左官技能者を雇用する専門工事企業の評価（「専門工事企業の施工能力等の見える化」と連動させることにより、高い技能を有する左官技能者を育て、雇用する企業が選ばれる環境を整備し、人材育成と処遇改善の好循環を生み出すことを目的とする。

3. 能力評価基準の対象とする職種

本基準は、左官工事に従事する技能者を対象とする。

具体的には、建設キャリアアップシステムにおける技能職種の

- ・大分類「左官」(35) 小分類「左官工」(01)、「吹付工」(02)、「外壁仕上工」(03)
- ・大分類「ブロック工」(08) 小分類「ブロック工」(01)
- ・大分類「防水工」(38) 小分類「防水工」(01)
- ・大分類「タイル工」(40) 小分類「タイル工」(01)
- ・大分類「屋根ふき工」(42) 小分類「屋根工」(01)
- ・大分類「その他（施工）」(52) 小分類「エクステリア工（外構工）」(10)、「仕上多能工」(40)

とする。

本基準に基づき能力評価を受けた技能者を、「左官技能者」と称する。

4. 能力評価の段階

能力評価はレベル1からレベル4までの4段階とし、各レベルにおける技能者像は以下のとおりとする。

レベル1：初級技能者（見習いの技能者）

左官についての基礎知識を有するとともに、左官道具・機械等の安全な使用方法を身に付け、熟練工のもとで現場のあらゆる下仕事を行うことにより左官の仕事が総合的な作業であることを学び、技能の基本を習得する。

レベル2：中堅技能者（一人前の技能者）

熟練工のもとで一つの仕事に責任を持って担当する。作業手順に沿って、正確な左官作業ができる。左官工事の周辺の関連工事について配慮した仕事ができる

レベル3：職長として現場に従事できる左官技能者で、他の技能者に対して仕様書に基づく材料・工法を指示するなど、作業管理、品質管理、工程管理及び安全管理ができる。プロフェッショナルとして評価される。

レベル4：高度なマネジメント能力を有する左官技能者（登録左官基幹技能者等）で、全体工程の把握・管理を行い、元請事業者や他職種との調整を行うことができる。熟練技術者として現場作業における技術上のリーダーとなる。

5. 各レベルの基準設定

各レベルの基準は、建設キャリアアップシステムに蓄積・登録される就業日数、保有資格、職長・班長としての就業日数を用いて設定する。

就業日数及び職長・班長としての就業日数は、建設キャリアアップシステムにおける技能職能のうち

- ・大分類「左官」小分類「左官工」、「吹付工」、「外壁仕上工」
- ・大分類「ブロック工」小分類「ブロック工」
- ・大分類「防水工」小分類「防水工」
- ・大分類「タイル工」小分類「タイル工」
- ・大分類「屋根ふき工」小分類「屋根工」
- ・大分類「その他（施工）」小分類「エクステリア工（外構工）」、「仕上多能工」

に従事した就業日数を評価する。

また、建設技能者の能力評価制度に関するガイドラインに基づき、建設キャリアアップシステムに蓄積された215日の就業日数を1年と換算して扱うものとする。

保有資格については、建設キャリアアップシステムにおいて、その保有等について確認できるものに限る。

各レベルの基準は、以下のとおりとする。

(1) レベル4の基準

【考え方】

- ・ 就業日数及び職長・班長としての就業日数については、登録左官基幹技能者講習の受講要件を踏まえ設定する。
- ・ 保有資格については、登録左官基幹技能者のほか、1級建築施工管理技士、優秀施工者国土交通大臣顕彰、安全優良職長厚生労働大臣顕彰、卓越した技能者（現代の名工）受賞を踏まえ設定する。

【基準】

①から③までを満たしていること。

①就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された就業日数が登録基幹技能者の受検資格に満たした経験を必要する2,150日（10年）以上であること。

②保有資格

レベル3及びレベル2の基準となっている資格を保有し、以下に掲げる資格のいずれかを保有又は表彰を受けていること。

- ・ 登録左官基幹技能者（講習修了証の期限が切れている場合は除く）
- ・ 1級建築施工管理技士
- ・ 優秀施工者国土交通大臣顕彰
- ・ 安全優良職長厚生労働大臣顕彰
- ・ 卓越した技能者（現代の名工）

③職長としての就業日数

職長としての就業日数は登録基幹技能者の受検資格に満たした経験を必要する645日（3年）とする。

(2) レベル3の基準

【考え方】

- ・ 就業日数については、1級左官技能士試験の受験資格要件を踏まえて設定する。
- ・ 保有資格及び職長・班長としての就業日数については、4. 能力評価の段階に示すレベル3の技能者像に適合する要件を踏まえて設定する。

【基準】

①から③までを満たしていること。

①就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された就業日数が1,075日（5年）以上であること。

②保有資格

レベル2の基準となっている資格に加えて、以下に掲げる資格のいずれかを保有している又は表彰を受けていること。

- ・ 1級左官技能士
- ・ 青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰

③職長・班長としての就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された職長または班長としての就業日数の合計が215日（1年）以上であること。

（3）レベル2の基準

【考え方】

- ・ 保有資格及び就業日数については、4. 能力評価の段階に示すレベル2の技能者像に適合する要件を踏まえて設定する。

【基準】

①から②までを満たしていること。

①就業日数

建設キャリアアップシステムに蓄積された就業日数が645日（3年以上であること）。

②保有資格

以下に掲げる資格・講習のいずれかを保有又は受講していること。

- ・ 2級左官技能士
- ・ 研削といしの取替え等の業務特別教育及び足場の組立て等作業主任者技能講習
- ・ 研削といしの取替え等の業務特別教育及び足場の組立て作業従事者特別教育

（4）レベル1の基準

【基準】

建設キャリアアップシステムに技能者登録をされ、かつ、レベル2から4までの判定を受けていない技能者とする。

各レベルの基準の内容については、別表に一覧として示す。

6. システム利用開始前の経験の評価

5.の規定にかかわらず、就業日数及び職長・班長としての就業日数については、当面の間、建設キャリアアップシステムに蓄積された情報に加えて、所属事業者等による経歴証明により証明された日数も活用する。

具体的な活用方法については、左官技能者能力評価実施規程に定めるところによる。

7. その他

左官技能者能力評価実施規程に定める評価実施の開始時期よりも前に、一般財団法人建設業振興基金に対して技能者登録の申請を行った者であって、登録左官基幹技能者の資格を有しているために一般財団法人建設業振興基金からゴールドのキャリアアップカードを交付された者については、レベル4の基準を満たしているものと取り扱う。

【別表】レベル1～4の基準の一覧

	就業日数	保有資格	職長・班長としての就業日数
レベル4	就業日数が 2,150 日（10年）以上であること。	<ul style="list-style-type: none"> ●登録左官基幹技能者 ●1級建築施工管理技士 ●優秀施工者国土交通大臣顕彰 ●安全優良職長厚生労働大臣顕彰 ●卓越した技能者(現代の名工) ・レベル2、レベル3の基準に示す保有資格 	職長としての就業日数が 645 日（3年）以上であること。
レベル3	就業日数が 1,075 日（5年）以上であること。	<ul style="list-style-type: none"> ●1級左官技能士 ●青年01優秀施工者土地・建設産業局長顕彰 ・レベル2の基準に示す保有資格 	職長又は班長としての就業日数の合計が 215 日（1年）以上であること。
レベル2	就業日数が 645 日（3年）以上であること。	<ul style="list-style-type: none"> ●2級左官技能士 ●研削といしの取替え等の業務特別教育及び足場の組立て等作業主任者技能講習 ●研削といしの取替え等の業務特別教育及び足場の組立て作業従事者特別教育 	/
レベル1	建設キャリアアップシステムに技能者登録をされ、かつ、レベル2から4までの判定を受けていない技能者		

※ ●印の保有資格については、いずれかの保有で可